



発行

財団法人 東京都生涯学習文化財団

東京都埋蔵文化財センター

〒206-0033

多摩市落合1-14-2

☎ 042-373-5296

# たまのよこやま

東京都埋蔵文化財センター報 No. 46

平成11年 6月30日

<http://www.tef.or.jp/maibun/>



大きなつぼだなー...  
何に使ったんだろう?



平成11年度の展示「古代、丘陵の生産活動」をご覧ください

## 甦る古代の生産活動

副主任調査研究員 鶴間 正昭

確かな技術は、千年の時を超えても人々を感動させる。多摩ニュータウン地域から発見された古代の生産遺跡がそのことを教えてくれます。

多摩丘陵は森林資源の宝庫です。木は建築材や木製容器の材料となるばかりではなく、燃料として古代の手工業生産に重要な役目を担っていました。石炭や石油など化石燃料を用いる以前は、燃料材は森林資源に頼らざるを得なかったのです。

また、丘陵からは窯業生産に不可欠な良質の粘土が採取できます。このように丘陵は、手工業生産に必要な条件が揃っていました。まさに、丘陵が古代の工業地帯だったのです。

奈良・平安時代には、多摩川の対岸に武蔵国の政治・経済・文化の中心である国府・国分寺が造営されてきます。律令体制の下、最新の技術が導入され、丘陵の豊かな資源を活用し、様々な生産活動が展開されたことでしょう。

今年度の展示は、古代の生産活動の遺した遺跡を取り上げ、窯業生産、木工生産、鉄生産など手工業生産の実態を紹介しています。古代の技術の粋を、とくとご覧ください。

遺跡だより ⑤4



汐留遺跡の庭園跡

大河ドラマの『元禄繚乱』が現在放映されていますが、赤穂浪士の討ち入りほど人々に知れ渡っている事件も少ないでしょう。

私たちはこの事件について、文献などの記録からしか知ることはできませんが、当時の人たちは、様々な形でこの事件について目にしたり耳にすることができたでしょう。

では、汐留に大名屋敷を構えていた三藩はどうであったのでしょうか。

龍野藩脇坂家はこれより以前に赤穂城の城受け取り役という形で、赤穂藩と深い関わり合いを持っていましたし、三藩に共通しているのは、屋敷の表門の前を討ち入りを果たして泉岳寺に向かう浪士の一行が、通り過ぎていくということです。自分達の屋敷の前を歩いていく浪士たちを

藩士たちはどのような気持ちで見ていたのでしょうか。

このような歴史的な事件を間近でふれていた汐留の大名屋敷ですが、一方で、屋敷内では、様々な営みが積み重ねられ、これらの中には、文献には残っていないような細かな日々の生活風景が数多く含まれています。遺跡内の調査では、これらを伺うことが出来る様々な遺構や遺物が出土していますので、その成果をふまえながら、大名屋敷の様子をのぞいてみることにしましょう。

まず、敷地の広さですが、幕末時の様子を記した記録によると、龍野藩脇坂家が八千二百五十五坪（27240㎡）、仙台藩伊達家が二万五千八百十九坪（85202㎡）、会津藩保科家が二万九千四百九十坪（97317㎡）となっており、かなり広大な敷地を持っていたことがわかります。

敷地の中には、御殿・長屋・庭園などが造られていました。御殿は表向と奥向に分かれており、前者はさらに表と中奥に分かれます。表は役所的な機能を持つ場で、中奥は、主人の日常生活を営む空間、奥向は夫人の生活空間になります。また、長屋は一般藩士の居住の場で、広大な庭園は接客や憩いの場として使われ



たのでしよう。

庭園跡からは屋敷の広さを実感することが出来る規模の池跡が、調査で見つかっています。この広大な池跡は、脇坂家と伊達家から出土しており、脇坂家のものは東西70m、南北20m程あります。

伊達家の場合は、東西が90m、南北が35m程ある大池と東西が21m、南北が26m程ある小池が発見されており、大池が表向に面するもので、小池が奥向に面する池に相当するのでしょう。これらの池跡は護岸を造り直した跡がいたるところで確認されていることから、池の規模や形は、何度か造り変えられていたと考えられます。

赤穂浪士の討ち入りのようなエピソードを遺跡の中からダイレクトに読みとれる例は少ないのですが、汐

留の大名屋敷跡からは、火事や地震などによる災害の跡・建物の配置・ゴミ穴に捨てられた多種多様な器や食べかすなど、当時の暮らしぶりを偲ばせる発見が数多くあります。

これらを十分検討することによって、浪士たちが左手に見ていた大名屋敷の堀の中の様子を、近い将来、少しずつ浮き彫りにすることが出来るでしょう。

(西澤 明)

汐留遺跡現地説明会

日時 7月3日(土)

12時~15時

集合 汐留遺跡現地説明会場

場所 JR新橋駅汐留口下車

徒歩5分

(新橋駅前に案内あり)

問合せ 埋文センター

汐留分室

TEL 03(3571)6592

### 上屋敷二つの御門

尾張藩上屋敷跡遺跡は、表門付近の調査を先頃終了したところです。

表門の概略はすでに（大江戸掘りもの帖九）で紹介されていますが、屋敷絵図面と調査成果を踏まえて、再度検証をしてみましょう。

陸上自衛隊市ヶ谷駐屯地正門付近の発掘調査では、表門の西側を構成する建物の北側部分の礎石列が検出され、文政期以降の絵図

に則した規模を確認できましたが、建物の南側部分の礎石は検出されていません。

また、表門の建物には、平行して異種石材の混在した石組溝が検出され、表階段の脇から表門の建物を挟んだ石垣までは柱穴群が、並列して見つかりました。

これらのことから石垣は後に何度か造り替えられ、塀は控え柱を持っていた構造と考えられます。礎石列を除去した下からは大型の柱穴列が発見され、二時期の重複が確認されています。

さらに、この西側からは桶枠を埋設したトイレの穴が3基ならんで検出されました。これは、寛文、元禄、



鑰石門付近（南から）

文政期頃の絵図面の「表門建物と付属する3連のトイレ」とほぼ一致しており、大形の柱穴列はこれらの時期の表門建物にあたりと考えられます。寛文頃の絵図面では、建物南面に沿った石垣が設置され、土台を構成していたこともわかり、「城門」のようであるとの指摘もあります。

表門を通り坂道を上ると中門が控えています。しかし、この場所はすでに削平を受けており、中門を構成する礎石はほとんど残っていませんでしたが、建物の北側に平行すると考えられる石組溝や土留め遺構の検出から、建物の存在とおおよその位置が確認されています。

中門は「鑰石門」（中雀門に同じ）と絵図面上にあります。この鑰石門とは「中雀門は、尾張、紀伊、水戸、薩州、仙台、福岡、芸州、長州、彦根、因州等前々より建て来りたる家に限りを作る。（中略）また中雀門ある家には表門うち幕番所を設く。加州、高松等は中雀門なくして幕番

### 保存科学室「ほれ話」(十)

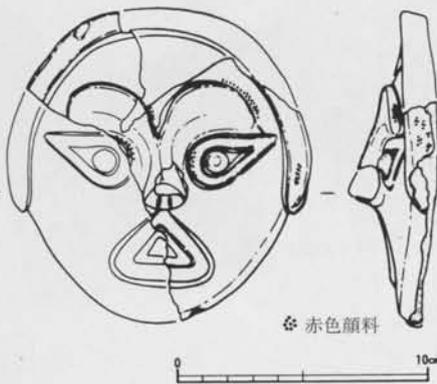
赤色顔料について(4)  
前回までは赤色顔料の母材を中心に、酸化鉄や水銀朱の例を述べてきましたが、今回は、土製品資料にみられる赤色物質を紹介します。

対象資料は、平成6年に多摩ニュータウンNo.72遺跡で出土した仮面状土製品です。この資料には、鼻の穴・眉や目尻の窪んだ部分に残存した微

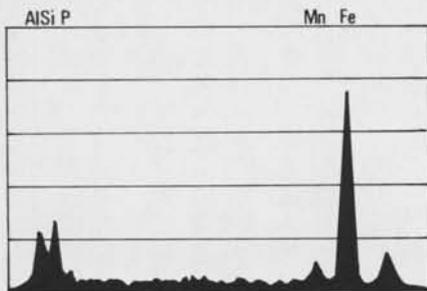
所のみを設くる家格なり。」と『徳川最世録』に記されており、したがって、この中雀門は高い格式にねざした門である事が判ると同時に、御成り門の他に中雀門を有した二重構造は、尾張藩上屋敷の他にも許されていたことがわかります。（田中純男）

量の赤色物質が観察されます。それでは、この顔料を分析してみましょう。

実体顕微鏡下で微量な試料を採取し、走査型電子顕微鏡とエネルギー分散装置で分析をしたところ、酸化鉄のうち、パイプ状物質で構成されるベンガラが使用されていました。このことは、当時の縄文人にとって貴重な土製品であることを物語っています。（上條朝宏）



仮面状土製品 (1/2)



赤色顔料のX線スペクトル

縄文土器の野焼き

今年も、5月の連休に恒例の縄文土器の野焼きが、予定通り3日に行われました。

大小の土器や、土偶、土面など40点あまり、無事焼きあがりました。土器で作った豚汁なども好評でした。見学者は、120名程でした。



文部省科学研究費補助金の交付

当センターの4名に内定通知がありました。

雪田隆子 「縄文時代の土器生産と物流の基礎的研究」

平成11年度広報普及事業のご案内

| 日 時   | 行 事 名              | 内 容   |
|---|--------------------|---|
| 5/ 3 (月) 10:00~14:00  | 縄文土器の野焼き<br>雑穀の種まき | 縄文土器の焼成作業の実演(見学自由)<br>庭園内の畑地にアワ・キビ・ソバ等を作付け              |
| 6/12 (土) 13:30~16:00  | 映画会                | 「木と土の王国」「縄文うるしの世界」                                      |
| 6/26 (土) 13:30~16:00  | 映画会                | 「沙流川シシリムカのはとりで」   |
| 7/ 7 (水) 13:30~16:00  | 第1回講演会             | 演題「土 土器の原料—時代で変わる粘土の掘り方—」<br>講師 及川良彦(都埋文センター副主任調査研究員)   |
| 8/19 (木) 9:30~16:30<br>8/20 (金) 9:30~16:30<br>9/11 (土) 9:30~16:00 | 縄文土器作り教室           | 詳細は「広報東京都」等に掲載の予定<br>応募者多数の場合は抽選になります                   |
| 9/ 4 (土) 13:30~16:00  | 第2回講演会             | 演題「炎 馬の絵のある窯」<br>講師 松原典明(都内遺跡調査会瓦谷戸窯跡群発掘調査団)            |
| 10/ 2 (土) 13:30~16:00   | 第3回講演会             | 演題「炎 古代の焼き物—むさしの国の須恵器生産を中心として—」<br>講師 渡辺 一(埼玉県鳩山町教育委員会) |
| 11/13 (土) 13:30~16:00   | 第4回講演会             | 演題「鉄 古代の製鉄と鍛冶」<br>講師 寺島文隆(財福島県文化センター)                   |
| 1/19 (水) 13:30~16:00  | 第5回講演会             | 演題「馬 古代の牧場—馬を飼い馬具を作った時代—」<br>講師 松崎元樹(都埋文センター副主任調査研究員)   |
| 2/ 9 (水) 13:30~16:00  | 第6回講演会             | 演題「木 古代の木器生産」<br>講師 竹花宏之(都埋文センター副主任調査研究員)               |

\*講演会の会場は、東京都埋蔵文化財センター会議室です。  
\*講演会・映画鑑賞会は、参加費が無料です。  
\*講演会への参加は、当日、会場で受付します。  
\*現地説明会は、都広報等でお知らせします。

比田井民子 「旧石器時代における

在地系石材、非在地系石材の消費構造について」

山口慶一 「近世における江戸市街・周辺地域への高麗瓦の伝播と棧

瓦宇面文様の変遷」

伊藤 健 「後期旧石器時代の遺跡の立地・形成の地形学・考古学的

研究」

分室の開設

4月より、新規分室の開設が続きました。

美山分室 安孫子昭二係長、竹尾進、

小松眞名(圏央道関連)

栄町分室 千葉基次係長、栗城譲一、

大西雅也(都道関連)

新川分室 岡崎完樹係長、小葉一夫、

武笠多恵子、西山博章(公団住宅)

東寺方・堀之内分室 鶴間正昭、竹

花宏之(都道関連)

人のうごき

4月の定期異動で

中村 渉(庶務係長)、小林重義

(調査研究部係長)が転出し、圓谷

和功(調査センター係長)、和田吉

司(都嘱託員)が退職しました。

後任に次の方々、着任しました。

中内英樹(庶務係長)、西原一美

(調査センター係長)、岡崎完樹(調

査研究部係長)、佐久間静子(都嘱

託員)。

また、6月16日付けで、沼田貴弘

(総務課長)が転出し、桐山靖彦が

後任で着任しました。

R100

古紙100%配合の再生紙

を使用しています。